

漁況海況予報事業*

概要

中地良樹・武田保幸・檜山晃晴・芳養晴雄
田中嘉治・「わかやま」船長 浜口英雄他6名

目 的

本県沿岸および同沖合の海況と本県沿岸漁業の漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行う。同時にこれらの情報を漁業関係者に報告して漁業経営の合理化に資する。

方 法

平成4年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

結 果

和歌山県漁海況情報（第1～6報）ならびに沖合黒潮調査速報（1992.No.4～No.11、'93.No.1～No.3）にすべて速報した。特徴的な海況と漁況の概要は以下のとおりである。

1 海 況

潮岬沖合と紀伊水道（合ノ瀬）沖合の黒潮中心部位置は表1、潮岬沖合の黒潮の中長期的な変動は図1に示すとおりである。黒潮流路は1991年9月末に遠州灘沖冷水塊の消滅後、1992年4月前半までN型となった1992年3月には都井岬沖に冷水域が形成され、黒潮は4月中旬に九州東岸～四国沖で大きく蛇行した。この蛇行の東端は5月初めに紀伊水道沖に達し上旬に潮岬を通過した。その後黒潮流路は5月はC型、6月以降は7月後半、10月後半から11月前半にかけて一時C型となったが、1993年3月前半まで小規模の変動を伴いながら概ねN型で経過、3月後半にはB型となった。

潮岬沖合の黒潮は1992年5月中旬、6月前半、1993年2月後半から3月後半までは同岬30湊以南へ離岸したほかは、概ね30湊以内の接岸を持続した。このような黒潮変動と連動して、紀伊水道では5月中旬から6月上旬に内側反流が発達した。紀南沿岸域で振り分け潮が本格的に形成されたのは7月後半以降から1993年1月であった。この期間紀伊水道外域は黒潮系水の影響下にあり、潮岬で離岸に転じた3月には紀伊水道沖から暖水の流入が顕著であった。

熊野灘では4月上中旬、9月上中旬、1993年2月中旬に潮岬からの暖水波及が顕著にみられ、なかでも4月のそれは規模が大きかった。また5月末から6月上旬は内側反流がみられた。沿岸部では7月後半から8月初めにかけてたびたび湧昇がおり低温化した。

2 漁 況

マイワシ 4～9月の当歳魚漁獲量は、1そうまき網（南部町・串本）でほぼ前年並の415tと低水準。秋季の当歳魚漁獲量も潮岬～熊野灘南部での漁場形成がほとんどなく、9～12月68.5t（1そうまき網南部町・串本計、前年比40%）と低調。1993年冬季の親魚中大羽群の紀伊水道外域～熊野灘南部への来遊は前年より約1ヶ月遅れ3月下旬で、その後4月上旬まで当海域に滞留し、定置網への入網がみられた（宇久井3～4月328t）。体長モードは16cmと20cmで、例年になく中羽群が

* 漁況海況予報事業費による。「平成4年度漁況海況予報事業結果報告書」として既報。

目立っており、成熟度の高い個体が多かった。マシラスは1993年冬季から前年より量的に多く、紀伊水道パッチ網で5月末まで混獲された。

カタクチイワシ 紀伊水道パッチ網は4月中旬以降カタクチシラス主体に5月中旬まで好漁であったが、5月下旬以降紀伊水道沖合の黒潮小蛇行による補給不良から極端に低調になった。この後、夏秋季もまとまった漁獲はみられなかった。

ウルメイワシ 全漁獲量の80%を水揚げする棒受網は、4月中下旬頃から各地先で操業が開始された。盛漁期は夏場の7、8月で当歳魚を主体とし1歳魚が混獲された。また、9月以降2歳魚以上群も出現し串本、勝浦を中心に水揚げされ11月下旬に当漁業は終漁した。今漁期は好漁年に当たり棒受網による漁獲量は909tで、平年の105%であった。

サバ類 1992年冬春季にはまとまった漁獲がみられなかった。8月中旬以降前年同様にすさみ三ツ石沖水深約100~150mにマサバの好漁場が形成されたが、前年より早く10月下旬に漁が切れた。ゴマサバの混獲率は低かった。8~10月の2そうまき網による漁獲量は3,636t(前年の65%)であった。夏秋季の漁獲主体は体長モード32cm(2+歳魚)の中型群で、前年同期に比べ大型群の割合が低かった。1993年冬季は解禁明けの2月下旬に1~3歳魚主体に好漁がみられた。

マアジ 1992年冬春季に30cm前後の大型群に例年になく多獲された(2そうまき網で約350t)。4~9月の2そうまき網による漁獲量は1,179t(前年同期124%)、また10月~翌年3月には1,023t(前年同期141%)といずれもここ数年来の好漁が持続した。

スルメイカ 釣によるスルメイカの90%が田辺、すさみ、串本、勝浦4漁協に水揚げされ夏イカ8に対して冬イカ2の割合である。4漁協における総漁獲量は312tで平年の約75%に過ぎない。外套長は夏イカが17~27cm、冬イカが24~30cmであった。特に、すさみでは全出漁隻数の75%が昼釣りで操業である。

カツオ 最近年における本県のカツオは、曳縄によって80%、竿釣で19%(沿岸4%、近海15%)が漁獲されている。'92年の場合、2月に入って間もなく操業が本格化し出足は好調であった。しかし、4月の盛漁期には黒潮(接岸)の南・北縁域に漁場が形成されたにも係わらず2歳魚の来遊量が少なく、曳縄で1,233t(77%)、沿岸竿釣35t(4%)、近海竿釣298t(19%)が水揚げされた。特に曳縄による減少が目立ち前年の61%、平年の73%に過ぎない。

ブリ 紀伊水道内、外域(加太~潮岬)では、釣漁業によるワラサ(メジロ)、ハマチ及びツバスが対象となる。水道内で8~11月、外域では8~2月を漁期としているが全域で不漁となる。また、最近年漁獲圧を高めていたまき網による減少も顕著であった。一方、ブリ定置網('92ブリ敷年度)は'93年2月に入ってからブリ類(ブリ;平均魚体7.3~10.7kg、ワラサ4.7から6.3kg)の入網が本格化し最近年では好漁の年(前年の約80%)といえる。

ソーダカツオ 熊野灘域の棒受網によるメジカ(マルソーダ)は、勝浦漁協に総漁獲量の50%に当たる315tが水揚げされた。

3 沖合・沿岸・浅海定線調査報告、海況・漁況情報の発行

1) 沖合・沿岸・浅海定線調査報告

主な配布先 水産庁、水産研究所(南西、中央他)、都道府県水産試験場、気象庁、漁業情報

サービスセンター、水路部

発行部数 沖合定線報告 45部

沿岸・浅海定線報告 55部

南西海区水産研究所外海調査研究部に所定の海洋観測入力様式「POD」にてデータを入力したフロッピーディスクで報告した。

2) 海況・漁況情報の発行

- a) 海況速報 漁業情報サービスセンターからファックス送信した海況速報はすべて、県下関係漁協に直ちにファックス送信。
- b) 人工衛星利用沿岸海況図 サービスセンターから受信後、利用価値のあるものは県下関係漁協にファックス送信。
- c) 南西東海海域海況速報 上記 a), b) と同じくファックス送信。
- d) 南西東海海域沿岸漁況情報 適宜業種別広域漁況を関係漁協にファックス送信 (2~7月)
- e) 沖合黒潮調査速報「わかやま」による本県沖合の黒潮とその内側域の漁場海況調査結果速報で関係漁協、関係機関にファックス送信。延 11 回。
- f) 和歌山県漁海況情報 (第95報~第100報) 和歌山県沿岸沖合を中心とする1ヶ月の海況と漁況及び資源の解説。

発行回数 年6回、1991年4月~7月、1992年2~3月

主な配布先 水産庁、水産研究所 (南西・中央)、都道府県水産試験場、県内全漁協、関係協力漁業者、その他関係者。

発行部数 200部

- g) その他 毎週1回海況、漁況の新聞広報 (週間南紀ウィークリー、紀伊民報等)。
定地水温は毎日、気象協会を通じて広報 (和歌山放送)。

表1 潮岬沖合と紀伊水道(合ノ瀬)沖合の黒潮中心部位置(正南距離, 湊)

月	1992.4	5	6	7	8	9	10	11	12	1993.1	2	3
潮岬 前半	10	*20	40	10	*15	*20	*10	*15	*15	*15	*15	40
	N	C	N	N	N	N	N	C	N	N	N	N
後半	10	20	20	20	20	*30	10	15	15	10	*35	55
	B	C	N	C	N	N	C	N	N	N	N	B
合ノ瀬	40	-	50	50	45	-	-	45	-	-	-	75*

* 印は水路部海洋速報による
1993.3の合ノ瀬沖は推定値

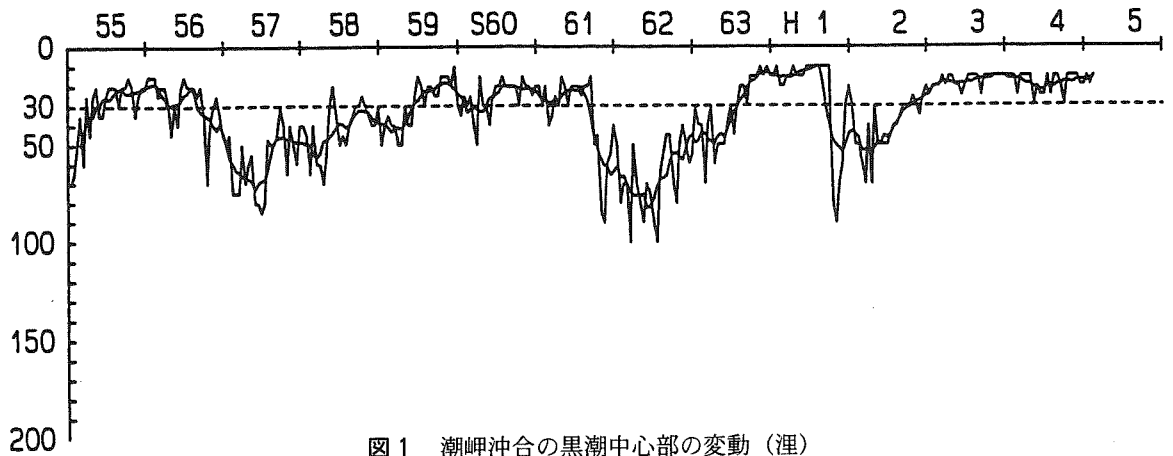


図1 潮岬沖合の黒潮中心部の変動(湊)
(太線は3ヶ月移動平均)

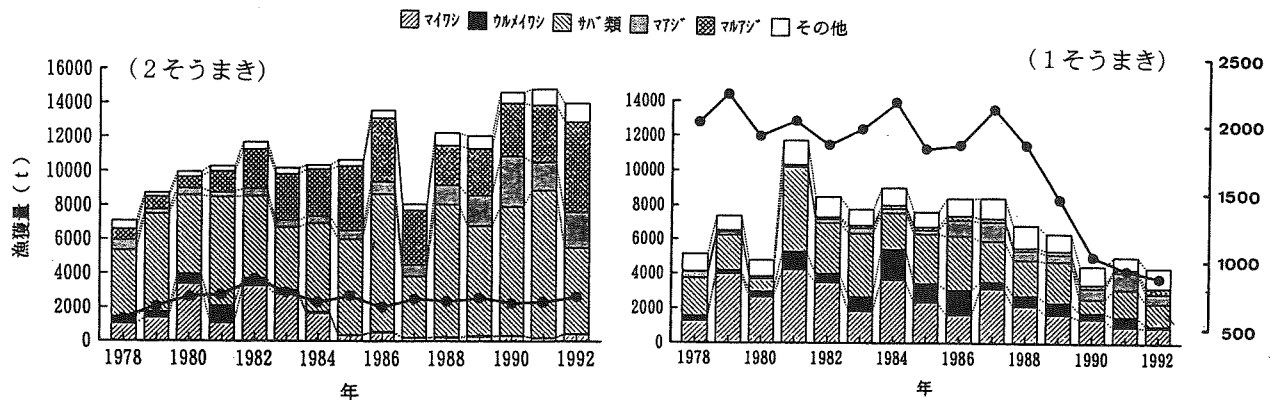


図2 和歌山県中型まき網漁業魚種別漁獲量